

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立ふるさと支援学校・教諭・細井大輔
- 2 研修期間 令和元年9月15日（日）～令和元年9月23日（月）9日間
- 3 調査研究課題等 ヨーロッパにおける教育、文化、芸術、歴史、社会事情の調査及び教員としての資質向上
- 4 研究機関等 在デュッセルドルフ総領事館
ザンクト・ペーター小学校
アルブレヒト・デューラー専門学校
デュモン・リンデマン共同基幹学校
デュッセルドルフ手工業会議所

5 研修の概要

(1) 在デュッセルドルフ総領事館

磯正人総領事を表敬訪問し、デュッセルドルフ市を含めたノルトライン・ヴェストファーレン州の一般事情、政治、経済、文化・歴史、日本との関係についてレクチャーを受けた。

ドイツは連邦共和国であるため、教育を含め各州に主権がおかれている。近年、一人一台タブレットPCを持たせるなど、デジタル教育に力を入れている。学術的教育と職業教育を同時に進めていくデュアルシステムが特徴的である。また、難民へのドイツ語教育が必要となっており、ドイツ語を教える教員不足が大きな課題となっていた。医療や再生エネルギーの分野で福島県と協力を行っていた。

デュッセルドルフ市は、日本食店が多くあったり、ライトレールに似た電車が走っていたり、日本語で書かれた看板があったりと、富山県を思い出させる町並みであった。



(2) ザンクト・ペーター小学校

6歳から10歳が通っている基礎学校（初等教育）。通常、授業は午前に行われ、午後は学童保育を行なっている。（全校児童約200名、内学童保育利用者150名程）カトリック宗派の学校であるが、親の理解の下、他宗教の児童も受け入れている。プログラミング等のデジタル教育に力を入れている。難民の流入を背景に、ドイツ語がまだ話せない児童向けに、週10時間のドイツ語授業を行なっている。低学年では、「自分のことを自分の言葉で伝える」ソーシャル授業が週1時間行われている。基礎学校修了後、（10歳：日本では小学4年生）で進路（進学か職業）を選択する。

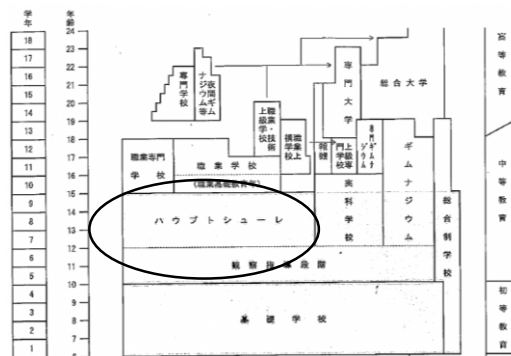


【親の関わり】

視察前、ドイツでは基礎学校修了時に進路選択があることを知り、児童に対してどのような進路指導を行っているのかが注目点であった。しかし、学校からの回答は「どの方向に進むかは親の責任です。」「特別な進路指導は行っていません。」というものだった。驚くと共に、親子の距離感の近さを感じた。国や文化の違いはあるが、親の重要性を改めて再確認できた。今後は親とのコミュニケーションをより大切にし、親と共に生徒の進路指導に取り組んでいきたい。

(3) デュモン・リンデマン共同基幹学校

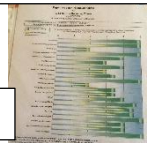
デュッセルドルフ市中心に位置する「典型的な中心市街地スクール」であり、生徒の80%が移民家庭出身、国籍は20カ国を上回る。生徒の半数以上がイスラム教徒のため、ドイツ語プログラムが充実している。進路指導や職業訓練に進む生徒のサポートに定評があり、卒業後の進路先を見つける学校である。（学校を卒業しないと、次のステップへ進めない。）また、学年毎に段階を踏んで、職業教育を進めていた。



[段階・学年]	[職業教育の内容や特徴等]
第一段階 8年生前期	可能性の分析 ：すべての8年生は実地を体験し、 <u>キャリアパス</u> を取得する。実地体験では、筆記試験やコンピュータでの適性検査、査定官による実技観察が行われる。外部機関の分析結果を基に、その後、生徒との話し合いが行われる
第二段階 8年生後期	資質の見極め ：様々な職種を体験できる職業センターで3日間実習を行う。センターには、 <u>資質を見極める専門家がおり、実習の結果を分析する。</u>
第三段階 9、10年生	職業のフォーカス ：9年生（前期・後期2週間）、10年生（年1回2週間）は会社での実習を行う。 <u>会社探しは、すべて生徒が行う。</u> （インターネット等で会社を探す、履歴書を書く、自ら会社に面接に行く）
第四段階 9、10年生 （卒業前）	一生の仕事探しとコンサルティング ：長続きする仕事探しを目標として、職業安定所の方が来校され、年3回一人一人と面談を行ったり、毎週金曜日（8時～14時） <u>コンサルティングの時間を設けたりしている。</u>



キャリアパス



外部機関の分析

【自信溢れる生徒の姿】学校とのレセプションでは、数名の生徒からインターシップでの様子やこれから挑戦したい職業等の話を聞くことができた。どの生徒も自分の思いを堂々と述べていた。小学校でのソーシャル授業や会社探し等の主体性を高める取組が生かされていた。自分の思いをしっかりと伝えることの大切さを改めて感じ、主体性を高める教育のポイントに気付かせてもらった。



(4) アルブレヒト・デューラー専門学校

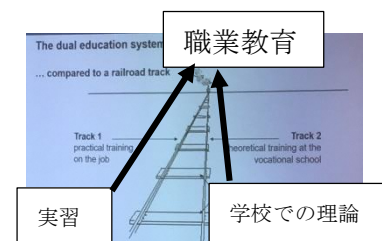
ノルトライン・ヴェストファーレン州で最大の職業専門学校。バリアフリー3階建、87室の一般教室と75室の専門教室を整備している。手工業、産業分野において、①職業訓練前の準備コース、②職業訓練、③職業訓練後の専門技能習得という3段階の学習過程を採用している。①では、難民等の様々な背景を持つ生徒に対し、基礎的な能力（ドイツ語教育等）の習得。②では、週3～4日企業で実技を学び、週1～2日学校でセオリー（理論）を学ぶ。③では、職業訓練を修了後、更なる上位の資格を取得するための職業訓練を行う。

(5) デュッセルドルフ手工業会議所

手工業分野で事業を起こすために必要な資格（マイスター）を総括し、各職種の職業資格の認定試験を実施する職能団体。また、若者への職業訓練や職の斡旋、事業所に対する支援を行っていた。

【デュアルシステム】

ドイツの職業教育では、現場で実技を習い、学校でセオリー（理論）を学ぶデュアルシステムが特徴的であった。日本にはマイスター制度はないが、学校ですべてを学ぶのではなく、現場で必要な力を身に付けるという考え方や取組に好印象を持った。また、学校と現場（企業や職人）との繋がりの強さを感じた。今回の視察で同行していただいた富山県経済同友会の皆様とのネットワークを大切に、学校と企業間で情報共有や意見交換しながら、生徒たちの職業教育に生かして行きたいと考えている。



今回の研修での、他校種の先生方や富山県経済同友会の皆様との出会いはとても貴重なものと感じた。他校種の先生方とは、思いや悩み等を共有し、励ましやアドバイスを受ける中で、更なる成長への活力をいただいた。富山県経済同友会の皆様からは、「人間の深さ」を学んだ。何事にも「なぜ、どうして」という好奇心を常にもっておられ、そうした姿勢が人間の成長や深さに繋がっていくことが分かった。中堅教員として、常に学びの姿勢を忘れず、日々の教育実践に取り組み、今回の研修で得た経験を大切に、未来を担う子供たちの教育に役立てていきたい。

最後に、このような貴重な機会を与えていただいた富山県経済同友会の皆様、富山県教育委員会の皆様に感謝申し上げます。